仕事算の練習問題

仕事全体の量と、1日・1時間・1分あたりの仕事量に注目して解きましょう。

名前：	日付： 月 日

【問題】次の問いに、式や考え方も書いて答えましょう。

【問題1】 ある仕事をするのに、Aさんは12日、Bさんは24日かかります。2人で一緒に仕事をすると、何日で終わりますか。

【問題2】 水そうを満タンにするのに、蛇口Aだけを使うと12分、蛇口Bだけを使うと18分かかります。両方の蛇口を同時に使うと、何分で満タンになりますか。

【問題3】 ある原稿をタイピングするのに、Cさんは20時間、Dさんは30時間かかります。2人で手分けして作業すると、何時間で終わりますか。

【問題4】 公園の掃除をするのに、Eさんは6日、Fさんは12日、Gさんは4日かかります。3人全員で掃除をすると、何日で終わりますか。

【問題5】 ある壁のペンキ塗りを、Hさんは8日、Iさんは12日かかります。2人で一緒に塗り始めましたが、途中でHさんが休み、結局終わるまでに6日かかりました。Hさんは何日間働きましたか。（応用編）

仕事算の練習問題 解答・解説

仕事全体の量を最小公倍数で決め、1単位時間あたりの仕事量を「 」で表します。

【問題1】Aさん12日、Bさん24日

① 仕事全体の量：12と24の最小公倍数は「24」。
② 1日あたりの仕事量：Aさんは 24÷12＝「2」、Bさんは 24÷24＝「1」。
③ 2人で1日にできる仕事量：「2」＋「1」＝「3」。
④ かかる日数：24÷3＝8（日）。
答え：8日

【問題2】蛇口A12分、蛇口B18分

① 仕事全体の量：12と18の最小公倍数は「36」。
② 1分あたりの水の量：蛇口Aは 36÷12＝「3」、蛇口Bは 36÷18＝「2」。
③ 2つの蛇口で1分間に入る水の量：「3」＋「2」＝「5」。
④ かかる時間：36÷5＝7.2分。0.2分＝12秒なので、7分12秒。
答え：7分12秒

【問題3】Cさん20時間、Dさん30時間

① 仕事全体の量：20と30の最小公倍数は「60」。
② 1時間あたりの仕事量：Cさんは 60÷20＝「3」、Dさんは 60÷30＝「2」。
③ 2人で1時間にできる仕事量：「3」＋「2」＝「5」。
④ かかる時間：60÷5＝12（時間）。
答え：12時間

【問題4】Eさん6日、Fさん12日、Gさん4日

① 仕事全体の量：6、12、4の最小公倍数は「12」。
② 1日あたりの仕事量：Eさんは「2」、Fさんは「1」、Gさんは「3」。
③ 3人で1日にできる仕事量：「2」＋「1」＋「3」＝「6」。
④ かかる日数：12÷6＝2（日）。
答え：2日

【問題5】Hさん8日、Iさん12日。全部で6日

① 仕事全体の量：8と12の最小公倍数は「24」。
② 1日あたりの仕事量：Hさんは 24÷8＝「3」、Iさんは 24÷12＝「2」。
③ Iさんが6日間でできる仕事量：「2」×6＝「12」。
④ Hさんが担当した仕事量：「24」－「12」＝「12」。
⑤ Hさんが働いた日数：12÷「3」＝4（日）。
答え：4日間